

竜になった 吉野長者の娘

昭和五十七年四月五日号

竜は想像上の動物として千年以上も昔にあらわれました。いろいろな魔力を使います。

しかし、恐ろしい妖獣ようじゆうというよりは、水の神としてうやまつたといわれています。

今回は竜になった娘の話を紹介します。

むかし、人間の福泉寺の近くに吉野長者きよのちやうじやという大金持ちが住んでいました。なんの自由のないくらしでしたが、子宝こたからに恵まれませんでした。そこで夫婦は氏神うぢがみに一心に祈りました。その真心が通じたのか、女の子が生まれ夫婦はたいへん喜んで「たまき」という名をつけて、かわいがって育てました。



福泉寺の山門

十七、八の娘ざかりに成長すると、村でも評判の美しい娘になりました。

娘は長者ヶ池の主

ある日、娘は死ぬまでに一度でよいから、白糸の滝の近くにある池をみたいと両親にお願いしました。両親はかわいい娘の願いに、さっそくカゴに乗せて、大勢の供をつけて長



者ヶ池（田貫湖）へやりました。

池につくと、娘はしばらく池をジツとみつめていました。すると、にわかには暗雲がたれこめ、稲妻が走り雷がおおると娘はみるみるうちに竜となり池の中へとびこんでしまいました。人々はあつげにとられていると、間もなく池の中央にあらわれ「私は吉野の娘として生まれましたが実は、この長者ヶ池の主です。訳あつてどうしても池に帰らなければならなくなつたのです。どうか、私を大事に育ててくれた両親にくれぐれもよろしくお伝えください」というと、そのまま池の中へ消えてしまいました。

人々は急いで家に帰り長者にそのことを話しました。悲しんだ長者が娘の寢床へいつてみると金色の鱗が三・四枚おちていたそうです。